

平成28年度事業報告書

はじめに

この法人は、平成9年に設立された「財団法人深川高齢者職業経験活用センター」を母体とし、平成25年4月法改正により「一般財団法人 深川高齢者センター21」に改組されました。平成26年8月21日「一般財団法人 前川ヒトづくり財団 21」に名称変更し、現在に至る。

事業目的

前川ヒトづくり財団 21 は、人口の高齢化と若年労働力の減少、更に労働期間の長期化する社会にあって、勤労者の年代に応じた能力を開発し、生涯にわたり活躍できる能力開発を推進すると共に高齢者が長年の経験と工夫を通じて蓄積した潜在能力が活かされる環境作りを図り、勤労者の福祉の増進と社会の活力と経済の維持発展に寄与し、生涯現役社会の実現を目的とする。

理事会 ・ 評議員会開催報告

理事会及び評議員会を下記の通り開催した。

(1) 平成27年度第2回理事会開催

開催年月日	平成28年6月7日
第1号議案	平成27年度事業報告の件
会議の結果	原案通り可決された
第2号議案	平成27年度収支決算報告の件
会議の結果	原案通り可決された
第3号議案	評議員会開催に関する件
会議の結果	原案通り可決された
その他報告事項	
報告の結果	質疑等は無かった。

(2) 平成27年度第1回評議員会開催

開催年月日	平成28年6月27日
第1号議案	平成27年度貸借対照表及び正味財産増減計算書承認の件（監査報告）
会議の結果	原案通り可決された
第2号議案	理事及び監事改選に関する件
会議の結果	原案通り可決された
第3号議案	評議員改選に関する件
会議の結果	原案通り 可決された
第4号議案	定款変更の件

会議の結果 原案通り 可決された
その他報告事項
報告の結果 質疑等は無かった。

(3) 平成 27 年度臨時理事会開催

開催年月日 平成 28 年 11 月 21 日
第 1 号議案 会員規約^{注1}(案)の件
会議の結果 原案通り可決された
報告の結果 質疑等は無かった。

(4) 平成 27 年度臨時評議員会開催

開催年月日 平成 28 年 11 月 24 日
第 1 号議案 会員規約^{注1}(案)の件
会議の結果 原案通り可決された
その他報告事項
報告の結果 質疑等は無かった。

(5) 平成 29 年度第 1 回理事会

開催年月日 平成 29 年 3 月 17 日
第 1 号議案 平成 29 年度事業計画（案）の件
会議の結果 原案通り可決された
第 2 号議案 平成 29 年度収支予算（案）の件
会議の結果 原案通り可決された
その他報告事項
報告の結果 質疑等は無かった。

注 1：「生涯現役社会に向けたヒトづくりの会(略称)ヒトづくりの会」の会員規約を指す。

事業計画に対する実施内容報告

事業計画内容

事業目的に対し下記の事業を行う。

1. 生涯現役社会を創るための調査・研究
2. 勤労意欲のある者への講座、セミナー育成事業
3. セミナー受講者を対象とした相談・助言事業
4. その他、前条の目的実現の為に必要な事業

1. 生涯現役社会を創るための調査・研究

【調査・研究】

((企業における生涯現役の取り組み例として、株式会社前川製作所(マエカワ)を最初に取り上げる。))

1) 「成人期、中年期、高齢期の各期の発達課題とそれを達成するための世代間の連携」

協力：田島信元先生（白百合女子大学）

平成 28 年度の活動状況：

6 月 21 日 4 名に実施したプレ面接、7 月 19 日 15 名に実施した事前調査をもとにして 104 項目のアンケート調査項目を作成した。アンケートの依頼先は前川製作所(@mayekawa.co.jp)メールアドレスを持つ 2,238 名中の 2,166 名に決定し 3 月末に WEB を使ったアンケートを依頼した。（締切 2017 年 4 月 25 日）

2) 「チームの技（熟達）およびシニアメンバーによる知的生産性の活用」

協力：北村勝朗先生（東北大学）

平成 28 年度の活動状況

5 月 26 日 守谷工場訪問、工場メンバー6~7 名と懇談

6 月 2 日 守谷工場訪問—トリダスとニュートンの開発者 2 名と個別面談

6 月 16 日 守谷工場訪問—トリダスとニュートンの開発者 3 名と個別面談

7 月 7 日 本社訪問—リーダークラス 5 名と個別面談

7 月 14 日 本社訪問—リーダークラス 1 名と若手 1 名と個別面談

8 月 29 日 本社訪問—シニア 2 名のインタビュー

平成 29 年 3 月 2 日、3 日 北海道支店訪問—20 代~60 代計 13 名のインタビューを行った。

3) 「高齢者がいきいきと働くための精神的な居場所と仕事の関係」

協力：藺牟田洋美先生（首都大学東京）

平成 28 年度の活動状況：

5 月 13 日 守谷工場訪問—8 名と懇談

9 月 16 日 守谷工場訪問—6 名と懇談

平成 29 年の 2 月 27 日、28 日、3 月 1 日、13 日の 4 日間で 12 名に個別インタビューを行った。

【研究会】

1. 生涯現役社会に向けたヒトづくりの会

* 定款上の根拠

定款第 38 条(会員)に基づく。

詳細は「【会員規約】生涯現役社会に向けたヒトづくりの会」による。

平成 29 年 1 月から会員募集を始め、平成 29 年 3 月 31 日までに、個人会員 3 名、法人会員 24 社の入会があった。

法人会員のうち、60 歳~65 歳未満の社員を雇用している企業が 5 社、65 歳以上を

雇用している企業 14 社ある。この財団及びヒトづくりの会に触発されて制度としての定年延長をした会社数や、運用上定年を延長した会社数が財団にとって大きな意味を持つ。

2. 勤労意欲のある者、特に高齢者のための講座、セミナー、育成事業。

「自己発見気づきセミナー（場所的自己発見研修）」を「継続事業（公益目的事業）」として行っている。

研修内容：組織の一員として若い人たちと一緒に働き続けるために、50 歳前後のメンバーを軸に、360 度評価を用いて自画像と他画像のギャップを「感じ・考え・気づく」ことを目的としている。ここでの「気づき」が行動を変えることにつながる。

事業実施結果

1) 自己発見気づきセミナー（場所的自己発見研修）（50 歳対象）

上記目的と内容で下記の通り行った。

第 36 回 28 年 6 月 23 日～24 日 （15 人）

第 37 回 28 年 9 月 29 日～30 日 （20 人）

第 38 回 28 年 10 月 20 日～21 日 （11 人）

いずれも 1 泊 2 日で 合計回数 3 回 計 46 人 に行った。

募集は主として当財団のホームページで行った。

研修会場は 3 回とも「大橋会館」研修センターで行った。

2) 自己発見気づきセミナー（場所的自己発見研修）（中高年齢者対象）

第 505 回 (株)電巧社 28 年 7 月 22 日～23 日（17 名）

第 506 回 // 28 年 8 月 19 日～20 日（18 名）

第 507 回 // 28 年 8 月 26 日～27 日（17 名）

いずれも 1 泊 2 日で 合計回数 3 回 計 52 人 に行った。

第 505、506 回は「ホテルコンチネンタル府中」、507 回は「大橋会館」で研修を行った。

3. セミナー受講者を対象とした相談・助言事業

1) 平成 29 年度に改定を予定している自己開発気づきセミナーにて展開する。

4. 【シンポジウム】

*ねらいと特徴

- (1) 「生涯現役社会の実現」に関する財団が行った調査・研究の成果や学術の専門の見地や実業界トップの先進情報を参加者と共有し、普及・啓発を図る。
- (2) 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構の後援を得ており、足並みをそろえた活動となっている。

(3) 広島では公益財団法人ひろしま産業振興機構と共催している。

* 「参加費」

無料

* 「実績」

- 1) 「第一回生涯現役社会の実現を考えるフォーラム」を2016年4月6日(水)に藤田孝典氏をゲストに迎え、『「下流老人」の著者と語る会』を開催した。参加者は38名だった。
- 2) 「第二回生涯現役社会の実現を考えるシンポジウム」を2016年10月21日(金)高齢・障害・求職者雇用支援機構の協賛を得て、前川製作所共創ホールにて開催した。基調講演は東北大学北村勝朗教授が「共同体による技(熟達)」をテーマに、白百合女子大学田島信元教授が「親子三世代と企業内三世代：共同体で人は育つ」をテーマに行われ、そのあと首都大学東京藺牟田洋美准教授が加わり当財団理事長伊東一郎の司会でパネルディスカッションが開かれた。参加者は48名だった。
- 3) 「第二回生涯現役社会の実現を考えるシンポジウム」は東京での開催に続き、11月26日(土)に広島県情報プラザで開催した。広島での開催は公益財団法人ひろしま産業振興機構と当財団との共催で高齢・障害・求職者雇用支援機構の協賛を得ている。基調講演は北村先生と田島先生で、パネリストには、当財団理事長伊東一郎が加わり、公益財団法人ひろしま産業振興機構の光本副理事長の司会で開催された。参加者は75名だった。
- 4) 「第三回生涯現役社会の実現を考えるシンポジウム」は平成29年4月4日(火)東京で開催を予定している。そのあと広島で開催を予定している。

5. その他、この法人の目的を達成するために必要な事業。

- 1) 「生涯現役懇話会」：生涯現役社会への取り組みを考える場
生涯現役を実現している前川製作所の文化的側面を探った
第13回27年4月19日、第14回5月31日、第15回9月14日、第16回
11月8日、第17回12月27日、第18回28年3月28日、計6回開催され
意見交換が行われた。
- 2) 共創サロンの開催
21世紀の企業経営を考える社長を主体とした研究会で、平成28年度は第
10回28年4月21日、第11回6月16日、第12回8月9日に開催された。
なお第12回をもって共創サロンは終了した。
- 3) 「自己発見気づきセミナー・自己開発気づきセミナーの改訂」
協力：藺牟田洋美先生（首都大学東京）
平成28年度の活動状況：

6月23日の第36回自己発見気づきセミナーを傍聴し同研修の現状把握を済ませた。

4) 会員企業の個別調査研究

会員企業の「生涯現役の実現」に向けた調査・研究を対象とした下記の調査研究報告があった。

① 藺牟田先生の研究発表

テーマは「あなたがいきいきと働き続けるために」

日付・場所：9月28日、前川製作所守谷工場

② 北村先生の研究発表

テーマは「チームの熟達と生涯現役～前川製作所の強み～」

日付・場所：11月25日、前川製作所東広島工場

日付・場所：12月1日、前川製作所本社8F

日付・場所：12月8日、前川製作所守谷工場

研究発表で強調されたことは、前川製作所には良い学びの場がある事、良いコーチングが行われていることである。前川製作所で見えてきた課題は、①挑戦が難しくなっている。②指導がなくなってきたである。